



図書館だより



2025 年
4月25日発行
秋草学園高等学校 図書館

新年度は順調にスタートできましたか？新しいことの始まりが重なり、慌ただしかったかもしれませんね。そろそろ学習や部活にと集中して取り組めるようになってきた頃でしょうか。朝の読書も毎週月曜日に始まりました。もし、読む本を選ぶのに困ってしましたら、図書館で司書と一緒に、興味をひく本を探してみませんか？
本を借りなくても、読まなくても、図書館はいつでも、あなたの来館をお待ちしています。

2025 年本屋大賞は『カフネ』

4月9日に受賞作品が発表されました！

本屋大賞

913.6-7『カフネ』

阿部暁子 || 著 講談社

「カフネ？」、聞いたことがない。調べると、「Cafuné [時に]頭をなでること(白水社現代ポルトガル語辞典改訂版, 2012)」とあります。実は、登場する家事代行サービスの会社名が「カフネ」であり、主人公も意味を調べて「ポルトガル語で『愛しい人の髪に指を絡めるしぐさ』をあらわす言葉ですよ。日本語に訳するのが難しいニュアンスの言葉だとありました。」(p.224)という説明がなされています。

主人公の悲しみが癒される内容なのかしら。しかし、表紙にはさまれた「カフネ特製レシピ冊子」を見る限りお料理の小説なのかしら。この小説は恋愛もの・ミステリーもの・グルメものかを分類するには難しく、これらをひっくり返して、悲しい、つらい、思いもかけないことが数月のうちに起こります。そして、けんか腰でつきあい、自分の主張を違えない登場人物たちが「カフネ」な状態になっていくお話です。読者の心も「カフネ」してもらえる、ホッとできる小説です。

阿部暁子さんの所蔵作品一覧です

- 913.6-7 『カラフル Colorful』 集英社
- 913.6-7 『金環日蝕』 東京創元社
- B913.6-7 『パラ・スター <Side 百花>』 集英社
- B913.6-7 『パラ・スター <Side 宝良>』 集英社
- B913.6-7 『また君と出会う未来のために』 集英社
- B913.6-7 『どこよりも遠い場所にいる君へ』 集英社
- B913.6-7 『アオハライド 1~6』 集英社
(咲坂伊緒原作マンガのノベライズ)



吉川英治文学賞

913.6-1 『方舟を燃やす』

角田 光代 || 著 新潮社

飛馬と不三子、2人の主人公の、昭和からコロナ禍にかけた人生が交互に描かれます。不三子は家族のための信念により、行動が極端になり、家族との関係に亀裂が生じてしまいます。「デマ・フェイク」がテーマの作品です。



吉川英治文庫賞

B913.6-3 『冬期限定ボンボンショコラ事件』

米澤 穂信 || 著 東京創元社

『春期限定いちごタルト事件』『夏期限定トロピカルパフェ事件』『秋期限定栗きんとん事件』から続くシリーズの完結編です。高校生の男女パディのミステリーで、漫画化・アニメ化(4月から2期放送開始)もしています。



吉川英治文学新人賞

913.6-1 『飽くなき地景』

荻堂 顕 || 著 KADOKAWA

主人公は、昭和の旧華族の嫡男です。家業である土地開発や不動産事業に興味を持てずにいましたが、祖父の所有する「無銘」という宝刀には魅せられていました。刀をめぐる事件と主人公の一生を描く、時代を駆ける物語です。



新着コーナーの気になる本

S723-1 『西洋絵画のお約束』

中野 京子 || 著 中央公論新社

絵画に描かれた女性。一緒に薔薇が描かれていれば、その人はヴィーナス、百合ならばマリアだと考えられます。絵画を理解し、より楽しむことができるようになる50のキーワードの意味が図版と共に紹介されています。神話や世界史が好きな方も楽しめるはずです。



司書の今月はこの本読みました

吉村司書、一年間ありがとうございました！

好きな映画を訊かれたら『かもめ食堂』(群ようこ/B913.6-4)と答えています。原作を何度目かの再読です。サチエは夢を叶え、フィンランドで食堂を開いています。ミドリとマサコと出会い、一緒に働くことになります。お店が存続の危機になるとか、はたまた大大大繁盛で店舗拡大なんてことは起きません。日常のちょっとした出来事と、人との関わりでお話は紡がれています。劇的な展開ではないからこそ、幸福さがわかり、癒され、憧憬するのだと思います。おにぎりが食べたくなる映画版もぜひ🍣

ワケあって再登場、最後なのでメジャーですが大好きな作品を紹介させていただきました。また逢う日まで😊【吉村】